

福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム（東京会場）  
座談会の概要

テーマ：「地域資源とネットワークを活かした地域おこし～福島の再生～」

登壇者：玉手孝行氏（やまもり会@霊山）

鈴木清美氏（(有) 鈴木農園・(株) まどか菜園）

岩崎由美子氏（福島大学）

（座談会の概要）

テーマ1：福島の価値や魅力とは

- ・福島の被災地をどのように再生していくのかと言うプロセスを見てもらう意味で、福島から発信する農業や農山村の情報は教育のポテンシャルとして非常に大きな意味を持つ。（岩崎氏）
- ・伊達市で活動していく一番の魅力は、地域の方々の温かい心遣いや、地元企業からの木材の提供など、人との繋がりが深いことである。（玉手氏）

テーマ2：福島の地域活性化に向けて

- ・きのこなどの原料仕入れ時に、仕入れ先でおが屑の検査を月1回の頻度で行い、常にデータを蓄積する安全性の取組を継続しながら、次のステージに移行している。

野菜やきのこなどを持続的に生産しながら稼いでいかなければならないため、作る力を磨くことや、お客様との接点を増やすために1日レストランを開き、野菜づくりや食事をしてもらうなど体験をしていただくことが重要。（鈴木氏）

- ・女性活躍推進法と言う法律ができたが、女性の力は経済の活性化や地域の活性化には欠かせないと言うのが共通認識。このため、特に、市町村など行政が、話し合いの場に女性がどれだけ参加できるか、例えば、地域の農協役員などに女性が参画するための意識改革をやっていかないと、なかなか女性の立場は変わらないし、前に進まないと思う。

また、地域の皆様からの支援をいただくことで、地域づくりの場に女性が参画しやすい雰囲気をつくっていくことが重要。例えば、飯舘村の地域づくりの場では、女性が半数以上参加しないと会が成立しないルールの下、地元のお母さん達が参加してくれたことで女性のリーダーが育ってきたケースもあるなど、地域づくりを女性が支えていくことが非常に大事である。（岩崎氏）

- ・地域活性化を推進するための仕組みづくりは重要だが、仕組みづくりは、どれだけ地域の人達が自分事として捉え行動できるのかが大事。自分の場合、里山を守ることは自分達の未来にとっても重要であるため、同じ過ちや失敗を繰り返すことはないと思う。(玉手氏)

### テーマ3：その他、登壇者からのコメント

- ・皆様も1年に1回程度、ボタン一つで電気が付くことや、お風呂のお湯が入ってしまう生活から少し離れて、薪などを使用するキャンプや田舎体験をしてもらいたい。そうすることで、現在の生活はどのような仕組みで成り立っていて、田舎の生活はどういうものなのか感じてもらうきっかけになれば良い。(玉手氏)
- ・野菜など食べ物を作る生産者としては、まず、農業体験をしてもらい、福島の地物を食べていただきたい。また、地元を大事にしており、地元で食べてもらえる仕組みづくりもやっていきたい。(鈴木氏)
- ・今、福島には風化と風評と言う大きな2つの風が吹いていて、風評はなかなか無くならないのに福島の事故自体は風化しつつある。そのような状況の中で、福島の農協や地物はどこへ向かっていくのか、大きな課題。

このため、福島で生活している人々が自分達の声で情報発信することが重要であり、その発信力を高め、都市部の消費者と繋がっていきけるような将来像が描けることが良い。(岩崎氏)